

平成20年5月15日

各位

財団法人 栢森情報科学振興財団
理事長 栢 森 新 治

助成金交付の対象となる「研究助成」等公募開始のお知らせ

拝啓 薫風の候 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

当財団は、平成8年3月25日に設立し、本年13年目を迎えることができました。この間、順調に事業を進めることができましたのも、皆さまのご理解とお力添えの賜物と、深く感謝いたしております。

さて本年も、当財団の主たる事業の1つであります、助成金交付の対象となる「研究助成」および「フォーラム・シンポジウム等開催助成」の公募を開始いたします。申請書の受付期間は6月2日(月)より9月1日(月)となっております。

つきましては、本年度の応募要領3部を同封いたしますので、情報科学関連の先生方や関係の方々にお知らせいただければ幸いです。

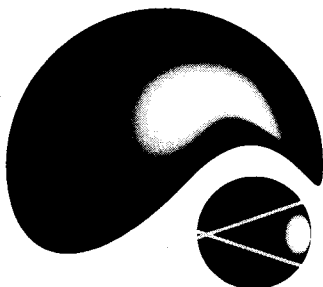
なお、当財団のホームページ(<http://www.kayamorif.or.jp/>)にも公募について掲載しておりますのでご参照ください。

(申請書は、上記ホームページに掲載しております。)

いま社会の情報化が急速に進む中で、当財団の役割の大きさを認識し、さらに有意義な事業を展開したいと考えております。

ご多用のところ誠に恐縮ではございますが、私どもの趣旨をご理解くださいますと、ご高配賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

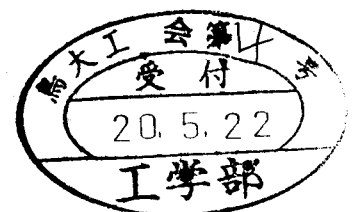
敬 具



〒450-0001
名古屋市中村区那古野一丁目47番1号
名古屋国際センタービル2階
TEL (052) 581-1660
FAX (052) 581-1667
E-mail info@kayamorif.or.jp
URL <http://www.kayamorif.or.jp/>

財団法人 栢森情報科学振興財団

Kayamori Foundation of Informational Science Advancement



応募の手続き

☆財団所定の書式(当財団ホームページに掲載)を用い、必要事項を記入して、財団事務局(下記)あて郵送またはメールで提出してください。
 ☆申請書の受付期間は平成20年6月2日から同年9月1日(必着)

(財)栢森情報科学振興財団

- ◇文部科学省認定、特定公益増進法人
- ◇基本財産：20億9,140万円
- ◇助成実績

(単位：万円)

年度	研究		フォーラム・シンポジウム等		特別研究	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成8年	11	2,190	3	150	—	—
平成9年	23	2,020	2	100	—	—
平成10年	22	2,010	4	200	—	—
平成11年	24	2,000	1	100	—	—
平成12年	23	2,000	5	130	—	—
平成13年	24	2,000	5	130	—	—
平成14年	24	2,000	6	150	—	—
平成15年	24	2,000	6	150	—	—
平成16年	24	2,000	6	150	—	—
平成17年	24	2,000	8	300	2	1,000
平成18年	24	2,000	8	180	—	—
平成19年	26	2,000	5	150	—	—

個人情報について

「当財団は、研究者の個人情報を以下の目的で利用し、法で定める場合を除き財団の利用目的の範囲を超えて利用いたしません。」

利用目的及び範囲

1. 研究成果の発表
機関紙(K通信)、記念誌及びホームページ等に掲載並びに財団主催の講演会等での発表。
(氏名・学校名・研究機関名・所属・役職名・研究テーマ及びその内容)
2. 研究助成及びフォーラム・シンポジウム等助成応募要領の発送。
講演会、フォーラム及びシンポジウム等の開催通知発送、機関紙等の発送。
(住所・氏名・学校名・研究機関名・所属・役職名)

(財)栢森情報科学振興財団 事務局

事務局長：柳井信忠

〒450-0001

名古屋市中村区那古野一丁目47番1号
 名古屋国際センタービル2階 ダイコク電機(株)内
 TEL.052-581-1660 FAX.052-581-1667
 URL <http://www.kayamorif.or.jp>
 E-mail info@kayamorif.or.jp

応募要領

◆助成の対象

- <1>情報科学に関する研究
- <2>情報科学に関するフォーラム・シンポジウム等開催

◆申請書受付期間

平成20年6月2日(月)～9月1日(月)

2008

本財団は、情報に関する、自然科学、人文・社会科学分野の、基礎的・萌芽的または総合的な研究に対する援助・支援を行い、情報科学の振興を図り、もって学術の発展に寄与することを目的とします。



財団の設立……平成8年3月25日

所管……文部科学省

財団法人 栢森情報科学振興財団
 Kayamori Foundation
 of Informational Science Advancement

私たちの生活を取り巻く情報環境は、ハード、ソフト両面で大きく変革を遂げてきております。昔は想像の世界でしかなかったいろいろな事柄が、IT関連技術の発展で現実のものとなる時代です。情報に囲まれて日々生活している私たちが、良好な生活環境を維持していくためには、自然科学分野のみならず、人文・社会科学分野を含めた、情報科学に関する幅広い分野での研究の推進を図っていくことが必要であると確信しております。

このような趣旨のもとに、平成8年3月25日、文部省(現文部科学省)所管としては初めての情報科学に関する研究の助成を目的とする財団、栢森情報科学振興財団が発足いたしました。

以来、当財団も13年目に入り、研究助成で273件、フォーラム・シンポジウム等開催助成では59件、特別研究助成では2件、総額27,110万円の助成金を交付してまいりました。平成20年度は、研究助成に2,000万円、フォーラム・シンポジウム等開催助成に100万円の予算を計上し、今年度の事業費の予算総額は3,211万円となっております。

当財団は、平成12年3月6日、情報科学振興などの公益に著しく寄与する財団であると、特定公益増進法人に認定され、2年ごとの更新手続きにおいても、再認定を受けております。

今後とも情報科学の発展に寄与できますよう、財団の事業をすすめてまいる所存でございます。

助成への応募の資格を特に限定しないこと、貴重な時間を少しでも研究に向けていただくために煩雑な手数を省くことなどの目的で、できるだけ規制を設けず、門戸を開放しております。

皆さまには、こうした当財団の趣旨をおくみ取りいただき、学術、ひいては社会の発展のためにお役立てくだされば幸いです。

今年度も、ご応募を心からお待ちしております。

(財)栢森情報科学振興財団 選考委員

(50音順・敬称略)

- * 稲垣康善：豊橋技術科学大学理事・副学長、名古屋大学名誉教授
- * 志村正道：武蔵工業大学環境情報学部教授、東京工業大学名誉教授
- * 辻井潤一：東京大学大学院情報理工学系研究科教授
- * 辻 三郎：大阪大学名誉教授、和歌山大学名誉教授
- * 福村晃夫：名古屋大学名誉教授、中京大学名誉教授

〈1〉研究助成

◆応募の資格

助成の対象となる研究を、計画に従って遂行する能力のある方(研究グループを含む)。

◆テーマ・内容

◎情報科学に関する調査、研究および開発で、学術的発展に寄与するものであること。

◎研究の計画および方法が、当該研究の目的を達成するために適切であり、かつ十分な成果が期待できるものであること。

◆助成金の額

1件あたり最高200万円までを原則とし、選考結果に基づき助成額を決定します。

◆交付決定

平成20年11月中旬の予定。全員に書面でお知らせします。

◆対象となる経費

機械器具装置の購入費および賃借料、旅費、消耗品費、謝金等。

◆研究完了日

助成金の交付決定後2年以内。

◆研究成果の帰属

助成研究によって取得された知的財産権は、研究実施者に帰属することとします。ただし、助成研究成果を特許、実用新案または意匠登録として出願し、その後、特許権、実用新案権または意匠権を取得したときは、速やかにその旨を当財団に届け出てください。また、当財団では、「特許庁長官指定学術団体」として指定されていますので、当財団が主催または共催する研究集会で文書をもって発表した場合、発表後6ヶ月以内に特許、実用新案の出願をしたときは、その発明または考案は新規性の喪失の例外とされています。その場合、当財団の証明書が必要となりますのでお申し出ください。

◆その他、留意していただく事項

- ①研究の成功・不成功にかかわらず助成金の返還は求めませんが、当該研究が実施されなかったり、研究実施者が当財団の規定等に違反した場合には、助成金の1部または全部を返還していただくことがあります。
- ②助成研究完了の日から起算して30日以内に、完了報告書の提出をお願いします。
- ③研究の成果を当財団の機関紙等に掲載したり、講演会等で発表していただくことがあります。
- ④助成研究の成果を学会等で発表したり論文にまとめたりする場合は、当財団の助成を受けて遂行されたことを明示してください。
- ⑤応募者の機会均等化を期するため、採択された方は、原則としてその年度以後3年間は、選考の対象とされません。

平成19年度 研究助成金交付者とテーマ

申請受付順、所属は申請書提出時のもの(敬称略)

- ◆角川 裕次
大阪大学 大学院 情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻 准教授
「Self-*性を有するセンサーネットワーク向けソフトウェアの実証的研究」
- ◆中西 英之
大阪大学 大学院 工学研究科知能・機能創成工学専攻 准教授
「実空間インタラクションを拡張するための位置検出システムの開発」
- ◆小口 正人
お茶の水女子大学 大学院 人間文化創成科学研究科理学専攻 教授
「メタバースサービス実行クラスタにおけるストレージ実現手法の研究」
- ◆周 向栄
岐阜大学 大学院 医学系研究科知能イメージ情報分野 助教
「高精細な3次元体幹部CT画像における人体の解剖学的構造の自動認識」
- ◆佐藤 寿倫
九州大学 システムL S I 研究センター設計技術研究部門 教授
「性能と省電力に配慮する高信頼性マルチコアプロセスに関する研究」
- ◆岩田 寛
京都大学 数理解析研究所 准教授
「劣モジュラ最適化の近似アルゴリズム設計への応用」
- ◆服部 宏充
京都大学 大学院 情報学研究科 社会情報学専攻 助教
「大規模エージェントシミュレーションのためのエージェントモデリングに関する研究」
- ◆程 京徳
埼玉大学 大学院 理工学研究科 数理解電子情報部門 教授
「先行推論に基づく永続的反応システムの実現」
- ◆郷古 学
東京工業大学 大学院 総合理工学研究科知能システム科学専攻 助教
「ダイナミックタッチを応用したロボットコントロールシステムの構築」
- ◆角谷 良彦
東京大学 大学院 情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻 助教
「プログラミング言語における双対性の利用」
- ◆廖 洪恩
東京大学 大学院 工学系研究科 精密機械工学専攻 科学技術振興特任教員
「裸眼で観察可能な長視距離三次元動画像表示システムの開発」
- ◆田中 一之
東北大学 大学院 理学研究科 数学専攻 教授
「ランダム性およびゲームの決定性に対する擬計算的解析」
- ◆津邑 公暁
名古屋工業大学 工学研究科 情報工学専攻 准教授
「自動メモ化による既存バイナリ互換高速プロセッサの研究」

◆梶田 将司

名古屋大学 情報連携基盤センター情報基盤システムデザイン研究部門 准教授
「コンテキストウェアな教育学習支援のためのサービス基盤とその活用に関する研究」

◆草刈 圭一朗

名古屋大学 大学院 情報科学研究科 准教授
「高階関数プログラムの自動検証に関する研究」

◆藤田 聡

広島大学 大学院 工学研究科 情報工学専攻 教授
「センサーネットワークにおける分散データマイニング手法の基礎的研究」

◆中村 恭之

和歌山大学 システム工学部情報通信システム学科 准教授
「多様体学習に基づく人間型ロボットの全身運動パターン生成法に関する研究」

◆石川 博

名古屋市立大学 大学院 システム自然科学研究科 准教授
「知覚的組織化の記述をめざしたパターンの機械表現の研究」

◆向井 伸治

前橋工科大学 工学部 システム生体工学科 准教授
「3次元立体の選択的部分マッチングと類似評価に関する研究」

◆山田 光穂

東海大学 情報理工学部 情報科学科 教授
「11動作を用いた非発声特徴とするヒューマンインタフェースの開発」

◆小倉 信彦

武蔵工業大学 環境情報学部 情報メディア学科 准教授
「適応信号処理手法を用いた組み込みソフトウェアの開発に関する研究」

◆曾我 麻佐子

龍谷大学 理工学部 情報メディア学科 助教
「二次元モーションデータを用いた舞踊振付のインタラクティブ生成に関する研究」

◆シュティフ ロマン

早稲田大学 メディアネットワークセンター 助手
「個人の情報探索挙動を考慮した概念ベース情報検索の新方式」

◆山口 巧

高知工業高等専門学校 電気工学科 准教授
「ユーザに寄り添うさりげない支援インタフェースに関する研究」

◆早坂 太一

豊田工業高等専門学校 情報工学科 准教授
「運動物体の認識における視点依存性と脳機能のラテラリティ」

◆秋葉 澄孝

独立行政法人 産業技術総合研究所 情報技術研究部門知識処理基盤グループ 主任研究員
「失敗による否定に対するセマンティクスの統一的な比較およびそのための手法の検討」

以上、26件・助成総額2,000万円

応募の手続きは裏面にあります。

〈2〉フォーラム・シンポジウム等開催助成

◆応募の条件

情報科学に関する学術的發展に寄与するフォーラム・シンポジウム等で、平成20年7月1日から平成22年3月末日までに開催されること。

◆助成金の額

年度内助成総額100万円までを原則とし、選考結果に基づき、助成額を決定します。

◆交付決定

平成20年10月末の予定(交付は開催確定後)。

◆対象となる経費

謝金、旅費、会場費、人件費、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費等。

◆その他、留意していただく事項

- ①終了後3カ月以内に報告書を提出してください。
- ②フォーラム・シンポジウム等開催の資料は、申請時に添付のほか、印刷物を発行する場合は送付してください。
- ③応募者の機会均等化を期するため、採択された団体等は、原則としてその年度以後3年間は、選考の対象とされません。

平成19年度

フォーラム・シンポジウム等開催助成金交付者とテーマ (敬称略)

- ◆「11th Asia-Pacific Workshop on Intelligent and Evolutionary Systems」
開発責任者：生田目 章
(防衛大学校 情報工学科 教授)
- ◆「2nd Workshop of ONCO-MEDIA (Ontology and Context related Medical image Distributed Intelligent Access)」
開発責任者：中井 敏晴
(国立長寿医療センター研究所 長寿医療工学研究部脳機能画像開発研究室 室長)
- ◆「エンタテインメントコンピューティング2007」
開発責任者：北村 喜文
(大阪大学 大学院 情報科学研究科マルチメディア工学専攻 准教授)
- ◆「第4回モバイルコンピューティングとユビキタスネットワークに関する国際会議」
開発責任者：高橋 修
(はこだて未来大学 教授)
- ◆「第12回知識発見とデータマイニングに関する太平洋アジア国際会議」
開発責任者：鷲尾 隆
(大阪大学 産業科学研究所 知能システム科学研究部門 教授)

以上、5件・助成総額 150万円